

6/10

マラソンも「新しい様式」

新型コロナウイルスの感染拡大で石狩管内でもマラソンなどの大会が中止になる中、9月27日に札幌市東区のモエレ沼公園で開かれる大会は「三つの密」を避けるため、自由にスタート時間を決めることができる対策などを取り入れる。

モエレ沼公園で開かれる大会は「札幌あおぞらマラソン2020オータム大会」。個人やリレーなど10種目を午前、昼、午後の3部制にし、スタート時間が重ならないようにする。

9月の札幌あおぞらマラソン スタート時間 自由に

さらに、スタートできる時間の幅を種目ごとに1時間、2時間半に設定した。ゴール後にスタッフが参加者に手渡ししていた紙の記録証は、接触機会を減らすため、インターネットを提供する。リレーではたすきの代わりにバトンを使い、走者が変わることによる毒する。

さらに、スタートできる時間の幅を種目ごとに1時間、2時間半に設定した。ゴール後にスタッフが参加者に手渡ししていた紙の記録証は、接触機会を減らすため、インターネットを提供する。リレーではたすきの代わりにバトンを使い、走者が変わることによる毒する。

実行委事務局は「大会が楽しみの声が例年より多い。万全の対策を取りたい」と話している。

管内では例年4月以降、約40のマラソンやクロスカント

マラソンなどの情報サイト「ランネット」と「スポーツエントリ」によると、現在エントリを受け付けている管内の大会は「札幌あおぞらマラソン2020オータム大会」と「真駒内6時間リレーマラソン」の二つ。真駒内の大会は8月2日に真駒内セキスイハイムスタジアム(南区)で開かれる。新型コロナウイルスの状況を見ながら、7月20日に大会開催を判断する。

(折田智之)

札幌風の会「田中さん制作

札幌市東区でたこ工房を営む「札幌風の会」代表の田中光夫さん(74)が、アイヌ文様をモチーフにした連だこ作りを進めている。胆振管内白老町のアイヌ文化復興拠点「民族共生象徴空間(ウポポイ)」の開業を盛り上げるために2月から制作を始めた。アイヌ文様をモチーフにした絵柄は初めて。

縦と横各36センチのひし形で、不織布を赤やピンク、緑、青の4色に色付けして、シマフクロウの目をかたどった文様を白抜きにした。絵柄は田中さんがデザインし「カムイの連だこ」と名付けた。手作業で竹の骨組みに不織布を貼り、100枚のたこにひもを通す。完成すれば、全長100センチの連だこ

連だこでウポポイ応援



アイヌ文様をモチーフにした連だこ作りに取り組む田中さん

になる。

完成後は町内のふれあい広場で揚げる予定。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でウポポイ

の開業が延期となり、たこ揚げの日程は決まっていない。田中さんは「たこは縁起物。皆で明るい気持ちになれば」と大空に揚げる日を心待ちにしている。

(服部貴子)